

(1 概況) 新型コロナウイルス感染症による経済活動への影響

1. 全国の新型コロナウイルス感染症の概況

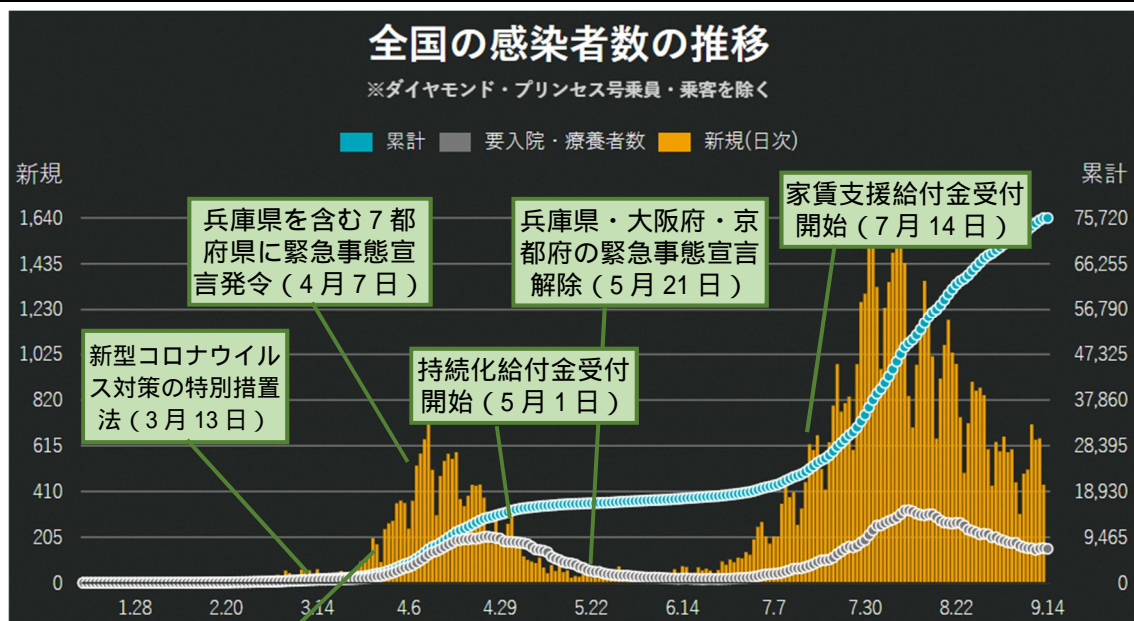
4月に第一波がピークを迎え、その後収束に向かうも、7月から第二波が拡大

感染者の発生 ～感染拡大第1波～第2波

- ・令和2年(2020年)1月15日に国内で初めて新型コロナウイルス感染症の感染者が発生。(ダイヤモンド・プリンセス号乗員・乗客を除く)
- ・3月以降に都市部を中心に感染が急拡大し、4月7日に兵庫県を含む7都府県に「新型コロナウイルス等対策特別措置法」に基づく緊急事態宣言が発令。
- ・第1波は4月半ばにピークを迎えるも、その後収束に向かい、兵庫県・大阪府・京都府の関西3府県の緊急事態宣言は5月21日に解除された。
- ・第2波は6月半ばに拡大し、8月上旬にピークを迎え、現在は新規感染者数が減少傾向にある。

国・県・市の経済対策等

国	4月1日 5月1日 7月14日 4月～適宜 7月22日～	雇用調整助成金の特例措置 持続化給付金 家賃支援給付金 各補助金に「コロナ特別枠」 ものづくり補助金・小規模事業者持続化補助金・IT導入補助金 Go to キャンペーン(トラベル・イート・イベント・商店街) など
兵庫県	4月28日 5月12日 6月30日	休業要請事業者経営継続支援金 がんばるお店・お宿応援事業補助金 中小企業事業再開支援事業(感染防止対策への補助金) など
川西市	6月1日 6月15日 9月20日	つながりづくり事業者支援事業(売上20～50%未満事業者への支援金) 川西テイクアウトクーポン発行 商店街プレミアム付き商品券発行 など



雇用調整助成金の特例措置開始(4月1日)

出典：株式会社 JX 通信社「ニュースダイジェスト」

『新型コロナウイルス 日本国内の最新感染状況マップ・感染者数』

< <https://newsdigest.jp/pages/coronavirus/> > (9/14)

出典元：FASTALERT(ファストアラート)新型コロナウイルスリアルタイム情報

2. 近畿企業の経済動向

(1) 全国・近畿企業の動向

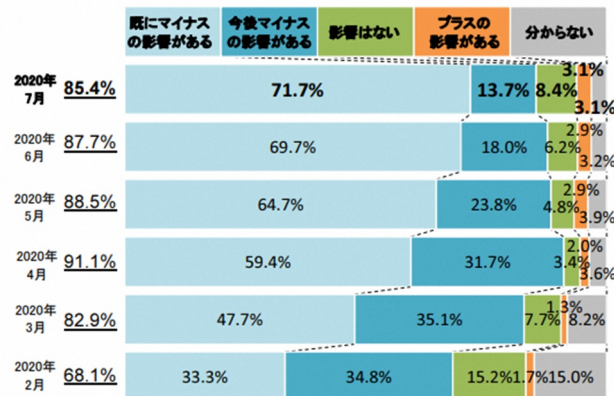
業績

業績は上向きつつあるも、前年同月比減 / 旅館・ホテル中心にマイナス影響が続く

帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する近畿企業の意識調査（令和2年（2020年）7月）」

- ・自社の業績に『マイナスの影響がある』と見込む企業は85.4%（7月）。ただし4月の91.1%をピークとして3カ月連続で減少。
- ・業界別では『農・林・水産』『金融』で9割以上の企業が5カ月連続で『マイナスの影響がある』。
- ・業種別では、「旅館・ホテル」など8種が100.0%で最も高く、「旅館・ホテル」「繊維・繊維製品・服飾品小売」などは6カ月連続で全企業がマイナスの影響（見込み）。
- ・『プラスの影響がある』企業は、スーパーマーケットなどの「各種商品小売」が50.0%で最も高く、次いで、「飲食料品・飼料製造」（15.2%）、「教育サービス」（12.5%）。
- ・令和2年（2020年）7月の売り上げ見込みは、前年同月比で平均85.3%。減少を見込む企業は68.4%となり、特に前年同月比で10～20%の減少とみる企業が3割超で集中。

新型コロナウイルス感染症による業績への影響



注1: 母数は、有効回答企業1,945社。2020年6月調査は1,853社、同年5月調査は2,010社、同年4月調査は1,997社、同年3月調査は1,925社、同年2月調査は1,800社

注2: 下線の値は『マイナスの影響がある』（『既にマイナスの影響がある』と『今後マイナスの影響がある』の合計）の割合

注3: 『プラスの影響がある』は、『既にプラスの影響がある』と『今後プラスの影響がある』の合計

注4: 小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

7月の売り上げ見込み

～ 前年同月比平均・上位下位各10業種 ～

(%、前年同月を100)

	上位10業種	前年同月比平均	下位10業種	前年同月比平均
1	各種商品小売	97.1	旅館・ホテル	41.2
2	医療・福祉・保健衛生	95.0	繊維・繊維製品・服飾品小売	69.6
3	医薬品・日用雑貨品小売	92.3	再生資源卸売	72.8
4	電気・ガス・水道・熱供給	92.3	家電・情報機器小売	75.8
5	専門商品小売	92.1	農・林・水産	77.8
6	飲食料品・飼料製造	91.2	出版・印刷	78.3
7	情報サービス	91.0	繊維・繊維製品・服飾品卸売	78.4
8	建材・家具・窯業・土石製品卸売	90.9	教育サービス	78.9
9	リース・賃貸	89.9	輸送用機械・器具製造	79.1
10	紙類・文具・書籍卸売	89.4	飲食店	79.6

出典：帝国データバンク「新型コロナウイルス感染症に対する近畿企業の意識調査（2020年7月）」

「新型コロナウイルス」関連破たん状況

資金力の乏しい小・零細企業を中心に、新型コロナの影響による倒産は増勢傾向

東京商工リサーチ「「新型コロナウイルス」関連破たん状況」(9月15日17:00現在)

- ・「新型コロナ」関連の経営破たん(負債1,000万円以上)は2月からの累計で全国481件(倒産429件、弁護士一任・準備中52件)。
- ・月別では、6月に単月最多の103件発生。また、9月は15日までに40件が発生し再び増勢。
- ・負債1,000万円未満を含めた新型コロナウイルス関連破たんは累計500件。資金力の乏しい小・零細企業を中心に、新型コロナの影響による倒産は再び増勢に転じる。
- ・なかでも、9月15日までの飲食業の破たんは70件(負債1,000万円未満3件を除く)に達し、新型コロナの打撃を受けた飲食業の倒産は、令和2年(2020年)は過去最多を更新する勢い。
- ・都道府県別では、東京都が120件に達し、全体の4分の1(構成比24.7%)と突出。以下、大阪府45件、北海道25件、愛知県24件と続き、兵庫県は18件。
- ・業種別では、来店客の減少、休業要請などで打撃を受けた飲食業が72件で最多。次いで、百貨店や小売店の休業が影響したアパレル関連(製造、販売)が54件、インバウンドの需要消失や旅行・出張の自粛が影響した宿泊業が46件で、この3業種が突出。



出典：東京商工リサーチ「「新型コロナウイルス」関連破たん状況」(9月15日17:00現在)

(2) 兵庫県内企業の動向

本県の経済・雇用情勢は厳しい状況が続いており、先行きも悪化の見通し

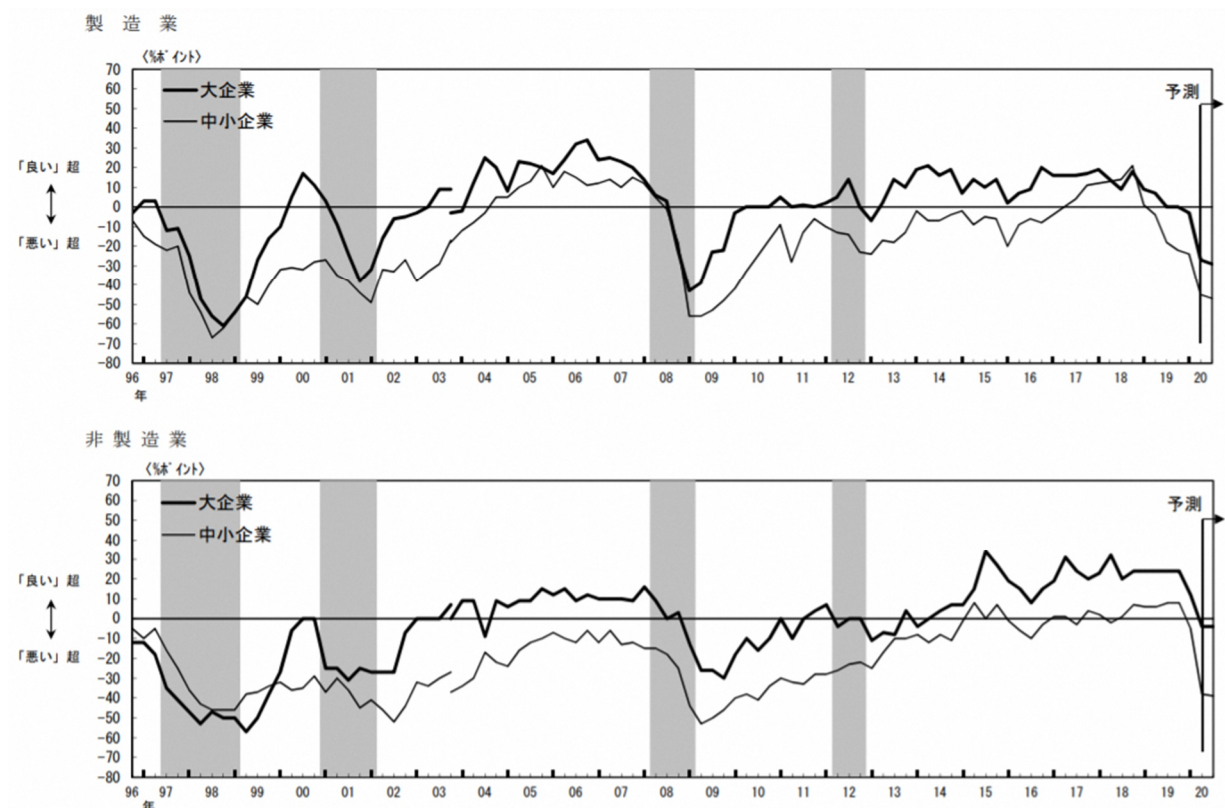
兵庫県産業政策課「兵庫県の経済・雇用情勢」(7月28日発表分)

- ・本県の経済・雇用情勢は厳しい状況。企業の業況判断は、足もとが悪化し、先行きも悪化の見通し。
- ・個人消費や輸出、生産は減少し、有効求人倍率は低下。

日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」コメント(9月7日発表分)

- ・管内の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい状態にあるが、足もとでは持ち直しの動きがみられている。
- ・個人消費は、持ち直しの動きがみられている。
- ・設備投資は、高水準で推移しているものの、慎重化の動きが広がっている。
- ・住宅投資は、弱めの動きとなっている。
- ・生産は大幅に減少しているが、足もとでは下げ止まりつつある。一方、労働需給は、有効求人倍率が1倍をすくまわるとなると緩んでいる。雇用者所得も減少している。

規模別業況判断の推移(兵庫県)



(3) 川西市の経済動向等

(川西市商工会「景気動向調査(期間:令和2年4月~6月)」(令和2年(2020年)7月29日))

極めて厳しい状態からは脱するも先行きは厳しく、第二波の影響を心配

巣籠り消費傾向により好調な事業者がいる一方、飲食・旅行・衣料は厳しい状態

景況

- ・市内景気は新型コロナウイルス感染症の影響により極めて厳しい状況下にあったが、緊急事態宣言の解除に伴い、個人消費が若干持ち直しの動きとなり、下げ止まりつつある。
- ・生産活動は、売上高の激減状態から脱した感じだが、依然として前年比を割っているところが多い。市内事業者の収益悪化は、少しずつ改善を見ているものの、依然として苦戦が継続。
- ・先行きについては、極めて厳しい状況からの持ち直しがさらに進むことをほとんどの事業所が期待しているが、第二波を心配する声も多い。

製造業

- ・生産活動が若干上向きに転じているところもでてきているが、新型コロナウイルス感染症の影響は5か月連続で、製造業の生産を下振れさせている。売上が前年比を割っているところが多い。
- ・各自動車メーカーによる生産停止や休業により、関連業界の工場稼働率が平常時には戻っていない事業所も見られる。
- ・先行きについて、生産活動の平常化に向けた動きに期待感。

建設業

- ・前月に引き続き、建設・建築工事の一部では受注工事が停滞するなど完成引き渡しにも影響がでており、売掛金の回収が遅れ気味。
- ・住宅関連では、新型コロナウイルス感染症の影響で、展示場への来場者が大幅に減少していることに加えて、訪問活動も自粛していることから、販売PRに支障をきたす。

小売業

- ・巣籠り消費傾向が継続している感が強く、スーパーでは、保存が利く加工食品を中心に、野菜や果物、肉、魚介類の買上点数が増えたことが原因で、売上自体は前年を上回る。
- ・家電販売では、特別定額給付金が支給されたこともあり、テレビや冷蔵庫、洗濯機などの大型商品の売上が増加。気温の上昇に伴い、エアコンなどの季節商材も好調。
- ・ドラッグストアでは、マスクやアルコール、ハンドソープなど新型コロナウイルス関連商品の動きは、引き続き好調を維持。
- ・アパレル関連、衣料雑貨は、バーゲンセール以外では不調になるなど、小売業でも差がでている。

サービス業

- ・飲食業では、客足は徐々に戻っているものの、新型コロナウイルス感染症の影響は依然として大きくなっている。団体予約の利用がなく、売上が平常に戻るまでには至らず、前年比を下回るところが多い。
- ・国内旅行の動きは依然として厳しい状態。政府のGo To Travelキャンペーンへの期待感が、事業者・消費者ともに大きくなっている。
- ・理美容業では、外出の自粛解除後の6月に入り来店客数が増加傾向となったこともあり、前年近くの売上をみたところが多い。